

法隆寺について

はじめに

まず最初に次のYouTubeをみて下さい。法隆寺は今なお人々の「祈りの場」として立ち続けています。。

<https://www.youtube.com/watch?v=8zAMb35Yr9s>

1、法隆寺創建の背景と目的

小野妹子は、607年推古天皇の摂政である聖徳太子に選ばれ、遣隋使として隋に渡る。

当時、中国の戦乱が続いていたため、日本（倭）と中国の国交が長く途絶えていたが、日本（倭）は300年ぶりに隋が中国を統一したのを機に国交を再開したいと考える。

そもそも、朝貢は、卑弥呼から始まる。古墳時代は、豪族の争いの時代であるので、朝貢をする余裕はなかった。その後、応神天皇の時代になって、大和朝廷が安定するやいなや、再び朝貢外交が始まる。南朝の宋の時代（420年-479年）、倭の五王が朝貢したことが記録に残っているが、雄略天皇以降、他の倭王が朝貢したかどうかは記録がない。多分、中国の戦乱が続いていたため、日本（倭）と中国の国交が長く途絶えていたのであろう。

倭の支配者たちは朝貢（貢物）することで、中国に倭の支配者として認めてもらい「冊封」という外交政策をとっており、倭は中国の事実上の属国であった。

そこで、馬子が国書を作る際、聖徳太子は、その作成に関与し、「天子」という言葉を使って、隋に倭を属国から独立国として認めさせようとした。そのためにまずやらねばならないことは、日本の国が中国が認めうるような立派な国でなければならないので、聖徳太子は憲法17条を作ったのである。第1条はかの有名な「和を以て貴しとなす」であるが、第2条に「篤く三宝を敬へ」とあり、聖徳太子は、仏教によって国の規範を正そうとして、法隆寺を創建したのである。

註：馬子が国書を作る際、聖徳太子は、その作成に関与し：東野治之の「聖徳太子」p9

法隆寺の創建は、**若草伽藍 (わかくさがらん)** から始まる。若草伽藍は、創建時の法隆寺であると考えられることから、**創建法隆寺**とも呼ばれる。

その後、若草伽藍は再建や増築を重ね、現在の法隆寺となっている。若草伽藍は、遺跡であるので誰が創建したのか不明だが、私は聖徳太子の創建になるものと思う。聖徳太子の創建だからこそ、その後再建もされ増築もされたのである。再建や増築の際には、それを指揮した人の思惑というか思想が反映されるため、聖徳太子とやましる山背大兄王とその一族の怨霊封じの工夫がなされたのであろう。その点に着目して書かれたのが梅原猛の[「隠された十字架」](#)である。

2、法隆寺境内の伽藍



それでは、現在の法隆寺の境内にある伽藍を見てみよう。

比叡山や高野山の境内と比べてそれほど広大とは言えない、これほどの多くの伽藍があるのは、他に類を見ない。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/hougaran.pdf>

それでは最後に、現在行われている法隆寺の行事を見てみよう。

3、法隆寺の行事について

法隆寺には、古代から現代に至るまで、地元斑鳩の人々と一体になって作り上げられてきた多くの行事がある。それらは、四季折々の、古式豊かな伝統行事ばかりである。

法隆寺 金堂修正会

<https://www.asahi.com/articles/photo/AS20180111004998.html>

法隆寺 追儺式

<https://www.youtube.com/watch?v=c-M8YWBkr5o>

法隆寺 涅槃会

<https://www.とれんどにゅーす.net/archives/post-638.html>

法隆寺 盂蘭盆会

<http://d.hatena.ne.jp/nobubachanpart3/20140819/1408478678>

法隆寺 お会式

<https://www.youtube.com/watch?v=bSahW7gJmal>

中でも私の注目する行事は、聖徳太子の命日に行われる「お会式（おえしき）」である。

参道には露店が並び、賑わいをみせる。

聖霊院の堂内には、「大山立（おおやまたて）」と呼ばれる不思議なお供え物が供えられる。その前面も不思議なお供え物でいっぱいだ。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/houoesiki.pdf>